

那珂川だより

那珂川緊急治水対策プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況をお知らせします

令和3年12月
第18号



編集・発行
国土交通省 常陸河川国道事務所

工事の進捗状況 ～堤防整備と河道掘削～



○堤防整備、河道掘削などの工事を実施しています。
工事にあたっては、安全第一で進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

堤防整備

(水戸市大野地区 那珂川右岸6.0k付近)



令和3年5月 (着手前)



令和3年11月 (施工中)

河道掘削

(水戸市渡里町地区 那珂川右岸17.0k付近)



令和3年9月 (着手前)



令和3年11月 (施工中)

令和3年度災害対策用機器操作講習会を実施しました

- 令和3年11月30日に、災害対策用機器として常陸河川国道事務所に配備している「排水ポンプ車」「照明車」「対策本部車」「待機支援車」の操作講習会を実施しました。
- 当日は、常陸河川国道事務所の職員12名に加え、点検業務の受注者8名にもご参加いただき、各機器の操作訓練を行いました。
- 初めて参加した新規採用職員は「災害に向けて備えることが出来ました。」と話していました。

照明車 ▶

▼ 排水ポンプ車



【番外編】海門橋の歴史を調べてみました！（第3回）



○海門橋の歴史を4編に分けて紹介しています。今回は4代目海門橋についてです。

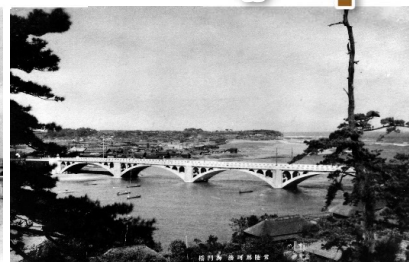
○3代目海門橋が開通してから約8年が経った頃、漁船が衝突し橋脚が損傷したり、橋上の橋板が抜けるなど老朽化が顕著に表れたことから、昭和2年度に新橋建設が計画され、昭和5年11月に4代目海門橋が完成しました。

○橋長196m、幅10mのコンクリート造アーチ橋で

あり、鉄道道路併用橋として水浜電車（現在の茨城交通(株)が運営していた路面電車）の運行も開始され、湊町から磯浜町を経て水戸市へ直結したことにより、人々の暮らしに大きく貢献し、地域では「虹の架け橋」と呼ばれ絶賛されました。（次回へつづく）



海門橋正面から
写真：ひたちなか市提供



4代目海門橋（昭和5年頃）
写真：ひたちなか市提供

寄稿：茨城県土木部河川課

マイ・タイムライン作成講習会を開催しました

○令和3年11月4日に、那珂市中央公民館で自治会役員向けのマイ・タイムライン作成指導のための講習会を開催し、那珂市内28名の自治会役員の方々にご参加いただきました。

○自治会役員が自らマイ・タイムラインの作成を体験することで、今後住民向けに開催する「マイ・タイムライン」作成講習会等での支援や市民が行う防災行動を把握し、実際の洪水時に市民の安全かつ円滑な避難に役立てることを目的としています。



先崎那珂市長挨拶



マイ・タイムラインの説明



作成状況

サケが遡上しました

○令和3年11月、今年もサケの遡上が見られました。那珂川は古くからサケ漁で知られ、水戸藩では、毎年その年の一番サケが朝廷や幕府に献上されました。水戸藩の「献上鮭」は初霜漬といって、糶漬にしたものと言われています。

○また、那珂川では明治9年（1876）全国で初めての人工ふ化が行われました。



遡上したサケ



千代橋付近



国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 調査第一課
TEL:029-240-4069



〒310-0851
茨城県水戸市千波町1962-2

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです

常陸河川国道事務所

検索

